

平成27年度

児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール  
作文の部〈講評〉

今年度の本事業は終戦70周年記念事業の一環として位置づけられ、各応募作品は生命を尊重し、世界平和を希求する心と態度を伝えるすばらしい内容である。

作文の部では小学校低学年から17編、中学校から3編、合計20編の応募があり、厳正に審査した結果、小学校低学年の部として、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞2名、入選3名です。中学校は、優秀賞1名、入選2名が受賞した。

作品審査においては、内容を重視し、表現方法、学年の発達段階等を加味しながら審査し、下記の講評とする。

1、小学校低学年の部 村長賞、かわのうえ めいさん(小1年)の作文「へいわがつかましますように」は文体が散文詩の形式で表現され、読む人へ話しかけるように書いてあるので同学年の子ども達でも分かりやすく気持ちが良く伝わってくる内容となっている。

2、小学校の部低学年の部 教育長賞、うえま きあら(小2年)さんの作文「こわいせんそう」は戦争の怖さを表現しながら自分の母親の死を重ね合わせた内容で進めながらも家族愛に結び繋ぎ平和への感謝を促している。同じく教育長賞、ひがりりさん(小2年)の作文「へいわのしるし」も文体が散文詩形式で綴られ、小学校低学年の内容からすると「発想の視野(ニコニコ・えがお)」がすばらしく、平和の有り難さは身近な日常生活から生まれてくることを表現した内容となっている。

3、中学生の部 優秀賞 吉田 流星(中2年)君は調べ学習から平和の尊さを学び、具体的に学級、家庭、地域社会でどのように取組ぶいいかとの内容となっている。

4、本村の児童生徒の大きな指導課題である「書く力の育成」「豊かな表現の育成」に資する機会となった。

5、今回は中学校からの応募作品が少なく、小学校においても低学年のみであった。戦後70年が経過し、戦争体験者が少なくなる中、学校教育や地域社会において、平和学習への取り組みを積極的に進め、今後とも戦争がもたらす悲惨さを正しく語り、命の大切さ、平和の尊さを継承していくことが本事業の趣旨であり、所期の目的達成のためにも、「応募作品の広がり」を今後の課題としたい。

6、今回の出品に協力していただいた各先生方、御父母の皆様、地域の方々に感謝いたします。

〈審査委員一同〉